

あたらしいまちづくりをめざす。

まちのスケッチブック

VOL-1

ちよまつ ひろやす
千代松 大耕



初議会を終え、市民の皆様の声を反映する泉佐野市議会議員という重責に改めて身の引き締まる今日この頃であります。

現在の泉佐野市はみなさまも既にご存知かとおもわれますが、財政が非常に危機的な状態であり、前年度並の事業を行えば40億円を超える赤字になってしまいます。新田谷新市長のもと泉佐野市は事業の見直し等早急な財政健全化をおこなっているのが現実であります。

さらに介護保険制度が始まり、充実した社会福祉、またそれ以外にも充実した教育等がのぞまれているわけではありますが、それらに対する財源が乏しい現在の状況では十分な対応が望めません。

私はこれから新しい若い力による既成の概念にとらわれない「新しいまちづくり」で泉佐野を活性化させ、多くの課題に対して迅速に対応できる新しい泉佐野の構築を目指して「新しいまちづくり」を推進して参ります。

またそれ以外に私の政治スタンスとしては、「多くの方々の意見を取り入れ、それらに対して優先順位をつけ行動に移し、また多くの意見を融合して理論立てていく」、そういった姿勢で今後取組んでいきたいと思っていますので、これからは市政に対して意見等がございましたら、お気軽に連絡願います。

① 3月定例会

- 1) 平成12年度泉佐野市各会計暫定予算を議決しました
新田谷新市長の就任に伴い3月定例会では4～6月までの必要最低限の経費のみの暫定予算を計上するにとどまりました。詳細につきましては(表1)を参照ください。
6月の定例会において本予算案を審査いたします。
尚、映画祭については暫定予算(前年度は5000万円)につけないとの報告があり、4月19日に今年度の映画祭の中止が決定しました。

【表1】 平成12年度 泉佐野市各会計暫定予算額 (単位：千円・%)

会 計 名	12年度暫定予算	11年度当初予算	比率
一 般 会 計	9,958,883-	40,436,521-	24.6
国民健康保険事業特別会計	1,955,221-	7,697,039-	25.4
老人保険事業特別会計	2,013,700-	8,439,044-	23.9
下水事業特別会計	1,337,187-	6,085,795-	22.0
公共用地先行取得事業特別会計	98,529-	298,777-	33.0
公園墓地事業特別会計	0-	33,320-	
介護保険事業特別会計	584,662-		新設
宅地造成事業会計	1,901-	192,923-	1.0
水道事業会計	1,002,965-	4,419,938-	22.7
病院事業会計	3,500,806-	14,787,532-	23.7
合 計	20,453,854-	82,390,889-	24.8

- 2) 新助役・新収入役を選任同意
助役に寺崎重紘氏(前市立泉佐野病院事務局長)、収入役に杉岡明昌氏(前水道局長)の選任を同意しました。

② 関西国際空港連絡橋に係る固定資産の減免

新田谷市長は就任当初から「市の財政が危機的な現在の状況では、従来どおりの二分の一の減免はありえない」と明言していましたが、4月10日「五年間に限り四分の一を減免する」と決定しました。

③ 一般質問

3月議会で個人質問を行いました。その内容を報告します。
「泉佐野市の産業振興について」

(質問)

日本の経済は全企業数の90%以上を占める中小企業によって支えられています。政府も中小企業基本法を改正するなどして中小企業の育成には力を入れ、今後もその傾向は変わることはないと考えられる中、泉佐野市としては中小企業の育成にどのように取り組んでいるのか。

泉佐野市の中小企業としては主にタオル産業があげられるが、そのような地場

産業に対する振興はどのように取り組んでいるのか。

日本は第三次ベンチャービジネスブームの中にあり、国としても中小企業の創業を目指す起業家を支援していく方向にあります。これからは起業家を支援し、ベンチャー企業の発展と雇用の場の拡大を図ることが地域の活性化につながると思うが、これに対して泉佐野市としては今後どのようにとりこんでいくのか。

(回答)

中小企業支援策として大阪府の中小企業向け制度融資等の利子を補給する中小企業振興資金利子補給を行い、資金調達コスト軽減、経営の安定を図ろうとしています。

その他にも国、府、市等の産業支援施策の情報提供として、ハンドブックの作成やホームページにおける支援策などのコーナーを設置しています。また経営相談や巡回相談、産業活性化セミナーを開催しております。

地場産業振興策としては、タオルのPRや新製品開発の支援、3月4日にオープンした大阪タオル工業組合のタオル常設展示場整備への助成などをおこないました。

起業家支援の方針としては泉佐野市の今後の発展を考える上で、起業家の支援、新たな事業展開の支援は重要な課題と認識しています。

産業支援策の説明会実施、新規開業向けの制度融資であるスタートアップ資金に対する利子補給などで開業時の負担軽減を図る等で起業家の支援を図っております。

(質問をおえて)

今回の質問の主旨は現在の泉佐野市が全く税収の伸びが期待できない状況下で、充実した福祉、また教育がのぞまれているわけでありますが、それらに対応するには、やはり産業の活性化でまず財源の確保が必要ではないかと思いましたが産業振興について今、泉佐野はどのように取り組んでいるのか質問いたしました。長引く不況の下では市独自の産業活性化策は厳しいですが、資本主義経済の国なら地方公共団体もこれからは独自のアイデアを振り絞って地域の活性化に取り組んでいかなければならないですし、その努力が肝要ではないかと思えます。

Q&A

4月から介護保険がスタートしましたが介護保険制度とは一体どんな制度ですか？

A

高齢者または家族から介護保険の申請を受け市区町村は申請のあった方の病気が重度か軽度かといった介護の程度を認定し、訪問介護や生活支援、施設介護などに振り分けて制度を実施します。介護保険制度の特徴は、市区町村が保険者となって、それぞれの個性を活かし自主的に運営していきます。市区町村は人件費などの運営費を決定し、国、都道府県は財政、事務を支援するにとどまります。そして40歳以上の国民が全員加入し高齢者の介護を40歳以上の国民全体でみるという制度であります。

介護サービスを受けられるのは65歳以上の第一号被保険者で40歳～64歳までの第二号保険者は特定疾病をのぞいては原則として掛け捨てです。

介護保険料は介護サービス利用者負担10%、保険給付90%で財政負担(税金)が50%(国25%、都道府県12.5%、市区町村12.5%)、保険料(40歳以上の国民から)

が50%です。

ちなみに泉佐野市の介護保険料は5段階ありその平均が3,215円(全国平均2,788円)です。

新しいまちづくり(1)

私は今後、私が掲げている「新しいまちづくり」の一貫としてさまざまな「まちづくり」を実地見学することにより泉佐野の「まちづくり」へ反映できればと考え、個人視察をおこなっていきます。

★バリアフリーを目指した総合福祉ゾーン 神戸「しあわせの村」



初回は神戸市北区にある「しあわせの村」を個人視察して参りましたのでその内容を簡潔に報告します。「しあわせの村」は障害者や高齢者の自立と社会参加、社会復帰を支援するとともに子供から大人までのすべての市民が交流できる、まさに障害者、健常者の垣根を取り除く“バリアフリー”を目指した総合福祉ゾーンであります。

村内にはさまざまな社会福祉施設、宿泊施設、温泉、プール、体育館、キャンプ場、テニスコートなどがあり、それぞれの分野が連携を図り、総合的な福祉サービスを提供しています。見学中、トレーニングジムで障害者の方々にトレーナーの人達がマンツーマンでつき、一緒にトレーニングしている光景が最も印象的でありました。

廊下、入り口に対しても障害者の方々のことを考え工夫がなされていましたが、案内していただけた伊藤克広氏(神戸大学博士課程在学中)によりますと、「入り口に置いてあるマットなどが車椅子の人達にとって邪魔になる。もっとバリアフリーを徹底せねば。」との言葉には“バリアフリー”という意味が持つ奥の深さを認識させられました。

千代松 大耕 プロフィール

昭和48年10月3日泉佐野市松原生まれ 26歳現職

泉佐野市議会議員

(厚生文教委員、関西国際空港問題対策委員、公害交通対策委員)

発行

千代松 大耕を育てる会

〒598-0045 泉佐野市松原2-5-31

発行責任者 安田豊弘